

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月4日現在

機関番号：12606

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22820025

研究課題名（和文） 日本の植民地政策における音楽の機能の研究：1930～40年代の台湾・朝鮮を中心に

研究課題名（英文） Studies on the function of music in Japanese colonial policy: The case of Taiwan and Korea in the 1930s-40s

研究代表者

葛西 周 (KASAI AMANE)

東京芸術大学・音楽学部・助手

研究者番号：00584161

研究成果の概要（和文）：

本研究は植民地期の台湾・朝鮮において、音楽がいかに文化政策に取り込まれたかを明らかにすることを目的とし、①植民地での日本の音楽の導入およびその戦略、②植民地固有の音楽実践を中心とした文化アイデンティティ形成、という二つの観点から考察した。具体的には、①植民地の新聞雑誌における音楽関連記事、②博覧会や地域運動会など大規模なイベント、③レコードや映画などの娯乐的複製技術作品、という三つのメディアから事例を抽出し、音楽がいかに語られ、取り入れられ、どのような反応や影響を引き起こしたかについて調査した。

研究成果の概要（英文）：

This study aims to clarify how music was utilized in colonial Taiwan and Korea from two perspectives: (1) strategy of adopting Japanese music in colonies, and (2) cultural identity formed through indigenous music practices. It argues how music was contested or imbedded locally, and what kind of responses the music elicited, by researching three media: (1) articles concerning music in newspapers and magazines published in colonies, (2) mass media events such as expositions or festivals, and (3) entertainment reproduced media works such as records and films.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	830,000	249,000	1,079,000
2011年度	560,000	168,000	728,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,390,000	417,000	1,807,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：近代日本音楽史・ポストコロニアル理論、メディア・イベント研究、異文化表象

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、近代日本国家形成における音楽の機能に関して、とりわけ音楽教育の側面からの研究が進められている。しかし、諸国・諸地域との流動的な関係の上に構築された近代日本の音楽を論じる上では、日本国内の事例のみならず、当時の政治的状況を鑑みて台湾や朝鮮といった植民地の事例に着目することもまた有効である。故に本研究では主に植民地の事例を調査し、これまで研究してきた日本国内の事例との比較を試みることで、国家より促された概念や価値観の認識・再構築・発信が音楽にいかに関与されたかを解き明かすこととした。

(2) 異文化に対する日本の植民地主義の実践は、土着の文化の廃止・抑圧もしくは支配国の文化の強制のような、同化という一面的な視座からのみでは語り尽くせない複雑性を帯びている。むしろ、植民地の文化をエキゾチックなものとしてまなざしたいという内地人の欲求は、現地の文化を日本とは違う特有のものとして消費する状態を生み出したと言えるだろう。本研究が日本の音楽と現地の音楽の両側面からアプローチをおこなう根拠はそこにある。したがって、植民地の文化を「日本」のものとして再編しようという同化への欲求と、エキゾチックな消費対象として楽しもうという異化への欲求とが交錯した当時の様相を、考察対象とするに至った。

2. 研究の目的

本研究は、日本が植民地においてどのような文化戦略を実施し、そこではいかに文化アイデンティティが形成されたかを解明することを目的とした。とりわけ日清・日露戦争ないし第二次世界大戦という特殊な状況下

の事例を扱い、近代化に伴って築かれた概念や価値観が音楽をつうじていかに強化されたか、もしくは変容したかを問うた。

3. 研究の方法

研究を進めるにあたって、植民地における文化実践と歴史的背景の双方についての先行研究の整理、文字資料や映像・音源など残存する資料の調査とそれに基づく事例の掘り起こし、理論の構築と方法論の確立を試みた。事例抽出に際しては、内地および植民地で発行された新聞雑誌にみられる関連記事の整理とデータベース作成、当該時期に開催された博覧会における植民地をテーマとしたパビリオン内の音楽演奏・舞踊上演に関する資料収集、植民地を題材とした、もしくは植民地で制作されたレコードや映画の実態調査を進めた。

4. 研究成果

(1) 唱歌が記紀神話を語り継ぐことをつうじて「天皇」像を定着させることに成功した一方で、戦時下の犠牲にまつわる「美談」が、モニュメントの設置や歌の創作と三つ巴となって対象を神格化せしめ、国民的記憶を形成したと指摘した。近代以降、とりわけ唱歌という新しい形式は、時局に即したいかなる題材をも包括し、物語の形成と定着を支えるメディアとなったことを明らかにした。

(2) 唱歌や奉祝歌、国民歌謡といった音楽は広く普及したため、どこの地域でも改めて練習をすることなく皆で唱和できる。そのような、いわば可動性が高く、平易で、簡単に再現可能な音楽が、さまざまな空間をナショナルな祝祭空間として成立させる上での拠り

所となったことを例証した。

(3) 日本人の前近代的身体を西洋化する上で導入された音楽や身体運動は、やがて日本の風土や慣習、そして時局に適した内容・形式をとりながら再編された。そこで、殊に戦時下で、唱歌のみならず音楽を伴う身体運動が軍事的な性質を帯び、児童のみならず成人に対しても国民統制や総動員の手段として用いられた過程に参加型ナショナリズムを確認した。

(4) 昭和 10 年の台湾博覧会の演芸館内で日本舞踊西川流が披露した新作長唄の《義人呉鳳》を取り上げ、「役人の自己犠牲により原住民の弊習が改められる」という内容の物語を題材とした同公演が台湾総督府文教局の後援を受けていたことを指摘し、原住民を制圧するのに苦戦していた時期に、漢民族を取り込もうと展開されたプロパガンダの一種であったと位置づけた。

(5) 原住民の少女であるサヨンが出征する内地人の教師を手伝う道中で事故死した事件を題材とした歌謡曲《サヨンの歌》の成立過程について、新聞等での報道を参照しながら考察した。支配側の役人である呉鳳が被支配側の原住民のために犠牲となって教化を実現させる、という趣旨の「美談」を採用した《義人呉鳳》と比較すると、原住民のサヨンが内地人の教師のために犠牲になる《サヨンの歌》には逆の構図を見て取ることができる。サヨンの事故死を「殉死」と意味づけている点からも、後者がいわば教化の成果の結実を強調していることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

① 葛西 周 “Dancing All the Way to the War: Disciplinary Power in Exercising to Music in Early Modern Japan.” (本文英語)、『演劇映像学 2011』、査読有、第 5 集、2012、pp65-80

② 葛西 周 「近代日本における楽器展示とその効果——内国勸業博覧会を中心に——」、『東京芸術大学音楽学部紀要』、査読有、No.36、2011、pp.37-49

③ 葛西 周 「歌われた「美談」——音楽をつうじた近代日本のイメージ戦略——」、『演劇映像学 2010』、査読有、第 3 集、2011、pp61-80

[学会発表] (計 4 件) :

① 葛西 周 「日本における音楽の近代化」、世界音楽週 2011、中国北京市、2011 年 11 月 5 日

② 葛西 周 「近代日本の祝祭空間における「音楽」表象」、東洋音楽学会、No. 52、東京、2010 年 7 月 3 日

③ 葛西 周 「「国民の物語」を運んだ音楽——近代日本におけるイメージ形成の歴史的展開——」、洋楽文化史研究会、No. 61、東京、2010 年 6 月 26 日

④ 葛西 周 “Dancing with the War: Disciplinary Power via Exercise Music in Early Modern Japan.” (英語による発表)、ACS Crossroads Conference、香港屯門区、2010 年 6 月 21 日

〔その他〕（計1件）

① 葛西 周 “Modernizing Music: Cultural Imperialism in Japan.”（英語による発表）、国立台湾大学大学院音楽学研究所特別講義、台湾台北市、2011年3月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

葛西 周 (KASAI AMANE)

東京芸術大学・音楽学部・助手

研究者番号：00584161

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：